

Ex. 31

Doc 228-A1

日本勞農社會主義共和國聯邦關係ノ基本

規定ニ關スル協約

千九百二十五年（大正十四年）一月二十日

北京ニテ調印

第一條 締約國ハ本條約ノ實施ニ伴ヒ兩國間ニ
外交並ニ領事關係ヲ開設スルコトニ同意ス

第二條 勞農社會主義共和國聯邦ハ千九百五年
（明治三十八年）九月五日ノ條約ガ從來通り完
全ナル效力ヲ有スルコトニ同意ス

該「ボーツマス」條約以外ノ千九百十七年（大
正六年）十一月七日以前ニ日本、露西亞間ニ締
結サレタル條約、協約及ビ協定ハ其後締約國政
府間ニ開催サル、會議ニ於テ再檢討シ、變化セ
ル情勢ノ要請ニ從ヒ、改正又ハ廢棄スルコトア
ルベキコトニ同意スルモノトス

第三條 締約國政府ハ本條約ノ實施ニ伴ヒ該漁
業條約ノ締結以來一様情況ニ起リタルト思ハル
、變化ヲ考慮ニ入レ、千九百七年（明治四十年）
ノ漁業條約ノ改正ニ着手スルコトニ同意ス
改正條約ノ締結迄、勞農社會主義共和國聯邦政
府ハ千九百二十四年（大正十三年）日本人臣民
ノ漁場ニ關シテ設定サレタル慣例ヲ履行スルモ

Doc 228-12

ノトス

第四條 締約國政府ハ、本協約ノ實施ニ伴ヒ下記原則ニ從ツテ通商航海條約ノ締結ニ着手シ又斯カル條約ノ締結迄兩國間ノ一般國交ハ該原則ニ據リ律スベキコトニ同意ス。

(一) 各締約國ノ臣民又ハ人民ハ該國ノ法律ニ從ヒ

(イ) 相手國ノ領土内ニ入り、旅行シ且ツ居住スル自由ヲ有シ、

(ロ) 自己ノ生命、財産ノ安全ニ對シ、不斷ノ且ツ十分ナル保護ヲ享受スベシ。

(二) 各締約國ハ該國ノ法律ニ從ヒ、其領土内ニ於テ相手國ノ臣民又ハ人民ニ對シ、可及的廣範圍且ツ相互的條件ニ於テ私有權及通商、航海、工業、並ニ其他ノ平和的事業ニ從事スル自由ヲ與フベキモノトス

(三) 其ノ國ニ於ケル國際貿易制度ヲ其ノ國自身ノ法律ニヨリ規定スル兩締約國ノ在來ノ權利ニ損害又ハ迷惑ヲカケズニ、相互ノ商業、航行、産業ヲ出來得ル限り最惠國タル地盤ニ置ク目的ヲ以テ締約國ハイヅレモ他方ノ國ニ對シ經濟或ハ其他ノ國交ノ發展ヲ妨害スル禁止、制限、課税ノ如何ナル手段ヲモ適用セザルコトニ了解ス。

Doc 228-P2

ノトス

第四條 締約國政府ハ、本協約ノ實施ニ伴ヒ下記原則ニ從ツテ通商航海條約ノ締結ニ着手シ又斯カル條約ノ締結迄兩國間ノ一般國交ハ該原則ニ據リ律スベキコトニ同意ス。

(一) 各締約國ノ臣民又ハ人民ハ該國ノ法律ニ從ヒ

(イ) 相手國ノ領土内ニ入り、旅行シ且ツ居住スル自由ヲ有シ、

(ロ) 自己ノ生命、財産ノ安全ニ對シ、不斷ノ且ツ十分ナル保護ヲ享受スベシ。

(二) 各締約國ハ該國ノ法律ニ從ヒ、其領土内ニ於テ相手國ノ臣民又ハ人民ニ對シ、可及的廣範圍且ツ相互的條件ニ於テ私有權及通商、航海、工業、並ニ其他ノ平和的事業ニ從事スル自由ヲ與フベキモノトス

(三) 其ノ國ニ於ケル國際貿易制度ヲ其ノ國自身ノ法律ニヨリ規定スル兩締約國ノ在來ノ權利ニ損害又ハ迷惑ヲカケズニ、相互ノ商業、航行、産業ヲ出來得ル限り最惠國タル地盤ニ置ク目的ヲ以テ締約國ハイヅレモ他方ノ國ニ對シ經濟或ハ其他ノ國交ノ發展ヲ妨害スル禁止、制限、課税ノ如何ナル手段ヲモ適用セザルコトニ了解ス。

Doc 228-P3

締約國政府ハ更ニ情勢ノ要請ニ從ヒ兩國間經濟關係ヲ調整及ビ助長ノ爲メニ、通商航海ニ關スル特別取極メ締結ノ爲メノ長々交渉ヲ行フコトニ同意ス

第五條 締約國ハ相互ニ平和親交裡ニ生活シ、ソノ獨自ナル方法ニ於テソノ獨自ノ管轄内ニ於テソノ獨自ノ生活ノ秩序ヲ保ツ國家ノ疑ナキ權利ヲ尊重ニ韋敬シ、兩締約國ノ如何ナル官職ニアル者全部及ビ兩締約國ヨリ受ケ居ル總テノ國體ノ日本及ビ勞農社會主義共和國聯邦ノ領土ノ如何ナル部分ニ於テモ如何ナル方法デモ其安寧秩序ヲ危險ニ及ボス如何ナル行動モ其ノ公然、非公然タルヲ問ハズ抑制スルコトノ彼等ノ希望及ビ目的ヲ正式ニ聲明ス。

締約國ハイヅレモソノ管轄下ノ領土内ニテ左記ノ存在ヲ許サザルコトニ更ニ同意スルモノトス即チ(A)相手國領土ノ如何ナル部分ニ對シテ政權ヲ僞裝スル組織又ハ國體或ハ(B)該組織又ハ國體ノ爲メニ事實政治工作ヲ行ヒツツアルヲ發見サル、コトアルベキ外國人國民又ハ市民

第六條 兩國間ノ經濟關係増進ノ爲メ及ビ天然資源ニ就キテノ日本國ノ需要ヲ考慮ニ入レテ勞農社會主義共和國聯邦ハ日本國民、會社及ビ國

Doc 228. P 4

体ニ對シ勞農社會主義共和國聯邦ノ全領土ニ於
ケル礦物、森林及ビソノ他ノ天然資源開發ノ權
利ヲ進ンデ許與スルモノトス。

第七條 本協約ハ批准セラル、モノトス
各締約國ノ該批准ハ、能フル限り通達ナク、在
北京該外交代表より進ミ相手方締約國政府ニ對シ
通告ヲ受クモノトシ且ソ本協約ハ該通告文書日
附ヲ以テ實施スルモノトス。

Doc 228. P 4

体ニ對シ勞農社會主義共和國聯邦ノ全領土ニ於
ケル礦物、森林及ビソノ他ノ天然資源開發ノ權
利ヲ進ンデ許與スルモノトス。

第七條 本協約ハ批准セラル、モノトス

各締約國ノ該批准ハ、能フル限リ通達ナク、在
北京該外交代表ト通ジ相手方締約國政府ニ對シ
通告ヲ受クモノトシ且シ本協約ハ該通告文書日
附ヲ以テ實施スルモノトス。

Doc 258-75

本協定ハ日本語、佛語及泰語ヲ以テ作成ス、右三國
語本文ノ間ニ解釋ヲ具ニスルトキハ日本文本文ニ據
ルモノトス

昭和十六年一月三十一日西貢ニ於テ之ヲ作成ス

(全信委員氏名在附)

BEIJING 10 10 10
FILE